店への行き方

店に行ってみたいな、という方へ

【住所】 函館市本通1-24-3
（五稜郭公園のすぐ裏手です）

【営業】 平日11:30〜17:00
土曜12:30〜17:00（日祝日休み）
TEL/FAX:0138-76-9865

（※営業時間が限られますのでご注意を！）

五稜郭公園の北側の道路沿い。中央図書館と回転寿司の函太郎の間の道をまっすぐ進み、3つ目の信号のところで通りとぶつかる。その角にあるモスバーガーの裏手にある本通町会館のすぐ隣（アパートの1階）です。店舗前駐車可能で、店舗横が空いている時はそちらもどうぞ。

住所は、“本通”ですが、ほとんど五稜郭町に近いので、まずは中央図書館を目指すとわかりやすいと思います。図書館を右、函太郎を左にした状態で、そのまま直進。2つ目の信号を過ぎたあたりで左前方を見るとモスバーガーの看板が見えてくるので、右手を見ると古いアパートの1階に板張りの一角が。かすかに見える緑のロゴがすず辰のマークです。

五稜郭公園のすぐ裏手なので、函館に観光に来られた方も公園内の中央にある奉行所から徒歩6分でつくことができます。北口出てすぐ右。

八百屋と花屋のはしごを

迷った場合は、遠慮なくお電話ください。
⇒0138-76-9865

主夫な八百屋の子育て日記②

～長女小学校入学編～

バリバリ働く研究者の母と
主夫で八百屋の父と
三人の子どもたちの
成長日記

こんにちは、主夫な八百屋です。

こんにちは、函館は本通で八百屋すず辰を営む、鈴木辰徳と申します。辰年の42歳、O型、おうし座、札幌生まれの関西育ちです。こんにちは、ではなく、はじめまして、の方もいるでしょうか。32歳で道南に越して来て、主夫になって早10年。主夫な八百屋と3人の子どもたちの成長日記(ときどき女房)。楽しんでいただければ幸いです。

一つ我が家の原点をご紹介。深見じゅんさんのマンガ「**ぽっかぽか**」。

我が家が子どもたちに、“ちち”、“はは”と呼ばせるきっかけとなった本です。

“夫婦円満の素”・“夫婦げんかの後の処方箋”・“思わず結婚したくなる不思議な本”

都会から電車で1時間半の郊外に住む、田所家の日常を描いたマンガです。

サラリーマンの“ちち”田所慶彦(たどころよしひこ)と、専業主婦の“はは”麻美(あさみ)、そして幼稚園児の“あすか”の3人の家族。フツーの家族のフツーの生活が描かれるだけなのですが、これまたどうして、しみじみと温かく、「家族っていいなぁ」と心にしみるのです。

田所家の周りのいろんな夫婦、親子も描かれます。時に重たいテーマもちゃんと扱いつつ、でもなにかあたたかく、家族仲良く元気がいい、と思えると言いますか。

夫婦げんかした後に読み返すと、「うん、謝ろう！」とあっさり思えますし(笑)。

自分の式の2次会の景品として進呈した友人は、このマンガを読んで「結婚っていいな」と思い、数年後奥様に出会い結婚することに！

ほんまやったら、世の全夫婦に、結婚間近な全カップルに贈りたい！

大金持ちになったら、全中学生に配布したいくらいです。結婚率が上がったり？？

ご興味ある方はまずは2巻から。結婚されている方なら7〜9巻を。でもできれば全巻大人買いを！“集英社 YOU漫画文庫 ぽっかぽか全15巻”、超おすすめです！！

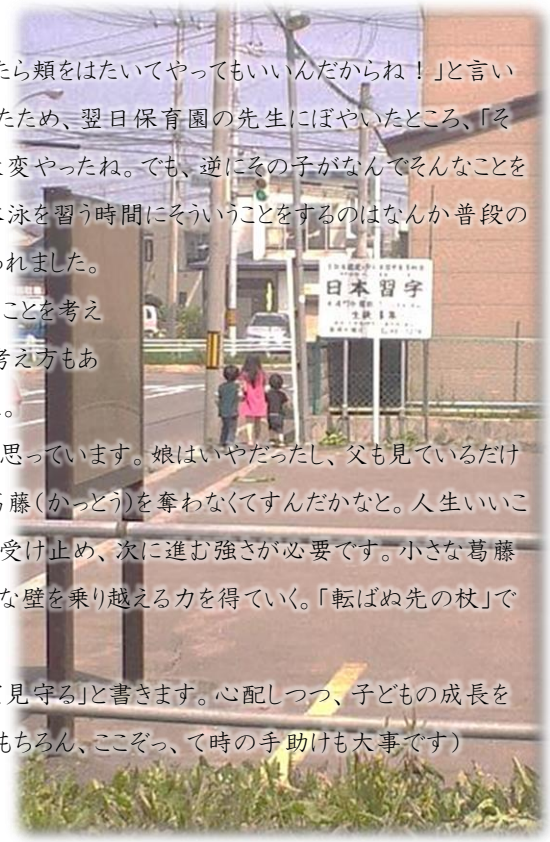
「ちちのなまえはちちじゃないんだね！」って、
5歳になって気づいた次男です。

2019年1月吉日

八百屋すず辰 店主 鈴木 辰徳

親という字は…

数年前、娘がスイミングに通い始めて数か月経ち、振り替えで普段と違う曜日の授業を受けたときのこと。いつもとは違うコーチに、見知らぬ子たち。ちょっと不安そうな娘を送り出し、2階の観覧席からプールを見守っていると、すぐ後ろを泳いでいる男の子が娘にちょっかいを出し始めました。水をかけたり、泳ぐ進路を妨害したり、後ろから背中をつんつんして来たり！　娘は嫌がりながらも言い返せず、コーチも10数人の子供たちを1人で見ているため、特に気づいていない様子。思わずプールサイドに行って、いたずらしている男の子の手をつかみ文句を言ってやろうかと、腰が上げかけましたが、“モンスターペアレント”という言葉が頭に浮かび、ぐっとこらえ、やきもきしつつ上から見ていました。



練習後、娘には「本当に嫌だったら頬をはたいてやってもいいんだからね！」と言い聞かせたものの、あまりに悶々としたため、翌日保育園の先生にぼやいたところ、「それはよく我慢したねぇ。○ちゃんも大変やったね。でも、逆にその子がなんでそんなことをしていたかの方が気になるねぇ。水泳を習う時間にそういうことをするのはなんか普段の生活に原因があるんだよ」、と言われました。
娘のことばかりであまり相手の子のことを考えていなかったため、「あっ、そういう考え方もあるんだ」、とちょっと冷静になりました。

今思うと、がまんしてよかったなと思っています。娘はいやだったし、父も見ているだけでつらかったのですが、子どもの葛藤(かっとう)を奪わなくてすんだかなと。人生いいことだけではありません。悪い経験も受け止め、次に進む強さが必要です。小さな葛藤を日常で経験しつつ、いつか大きな壁を乗り越える力を得ていく。「転ばぬ先の杖」では、そのうち大ゴケしてしまいます。

“親”という字は「木の上で立って見守る」と書きます。心配しつつ、子どもの成長を見守っていきたいなと思います。(もちろん、ここぞっ、て時の手助けも大事です)

〔14/4/21〕

男に料理は任せられない？！

10年ほど前、東京で友人夫妻と食事をした時の話です。話題は「働く女性にとって、よい食事をとるために必要なことは？」「パートナーのサポート？」「外食店、惣菜店？」「それとも、行政などの公的サービス？」などなど。ご夫婦はともに大学の研究者。ふたりともバリバリ働いており、いわゆる“夫婦共働き家庭”。

そこで出たのが奥様の発言。「男性が作ってくれるのはうれしいけど、だいたい男性が作るものは、脂っこかったり、レトルトものだったりで家の料理は任せられない！」。.

共働きの夫婦だったら、余裕がある方が料理した方がいい。だから、パートナーとして男性も料理したら楽しいぞー！！、と当時思っていた私としては、目からうろこの発言。そうかぁぁぁ、男には料理は任せられないのかー、って。

ちなみに、その翌日、朝昼兼用で、私が作った料理が以下。

◎玉ねぎとトウモロコシとシーチキンの炒め物+ミニトマト添え：

（玉ねぎ）1か月以上前のもの。芽が出てシャクシャクの食感。

（トウモロコシ）賞味期限切れ。2年以上前！香りが普通だったので使用。

◎わかめスープ：お湯を沸かして、スープの素をいれただけ。

◎ご飯：先週末に炊いたご飯を冷凍していたものをレンジでチン！

⇒炒めもの→脂っこい！、スープ→レトルトと、見事“任せられない男性料理”の典型でした．確かに、子どもには食べさせられないかも(と当時思ふ)。

そして今、日々の料理を担う父が作る日曜の食卓は、

◎キムチ鍋：店の売れ残りの葉物がいっぱいあったので、ごった煮。

◎大根の煮物：売れ残りの大根・里芋・人参・葱に鶏肉・たまごをおでん風に。

◎焼しゃけ＆サラダ：ばんば屋のサラダ

セットにかぶとシーチキンを投入

◎南瓜煮：作り置きをレンジでチン

見事に煮物だらけですね。

まぁ、そんな日もあります（笑）。

〔14/5/12〕

う～ん、頼りになります。

月曜日、学校の給食も始まり、もう弁当はいらないや、と安心していたところ、娘(6)から「きょうは月ようだから、（長男）のおべんとうがあります。わすれないでね」、と言われました。おー、忘れていました。物心ついたころから、「父は忘れっぽいから、なんかしてほしければ直前にもう一回言ってや！」、と言い聞かせて早3年？ 見事にしっかり育ったものです。こうやって“うっかりものの父親と、しっかりものの娘”が出てきあがっていくのですね。

う～ん、頼りになります。〔14/4/14〕

（※保育園は、年少から月曜日だけ弁当なのです）

長い棒は男心をくすぐるようで。

連休最終日、「トッキュウジャーショウ」を子どもらと堪能した後、上磯ダイエーにて、ビニールバットを購入しました。お昼を食べて、店裏に車を止め、五稜郭公園へ。道すがら、バットを持った長男(4)は終始興奮気味。歩道の道路際でバットを振り回したり、「はやくはやく！」、とバットを抱えて一人走っていったり。さながらバットでなく、“刀”のよう。しかも忍者のように背中に斜め刺し。男の子というのはつくづく棒が好きなようです。兄弟でチャンバラもよくしています。〔14/5/7〕

誕生日は生んでもらった日でもあるわけで。

春菊の花

誕生日と言えば、“生まれた日”として小さいころから祝ってもらうものですが、女房の出産に立ち会うこと3回。“産んでもらった日”なんだな、とつくづく認識を改めました。特に、次男の出産には、長女（当時4歳）・長男（1歳）も出産に立ち会い、生まれてくる弟を見守る姿に、産声とともに自然と涙があふれました。

自らの誕生日・“母の日”と続いた先週、すべての“お母さん”に敬意を。そして大阪の母に「ありがとう」とともにささやかなプレゼントを送りました。家では、長女(6)は母に手紙を書き、次男(2)は肩をたたいていました。長男(4)は腰に乗ってマッサージ。〔14/5/12〕

「アナと雪の女王」を見て

お盆休みに、ディズニー映画の「アナと雪の女王」のDVDをやっとこ借りて家族で見ました。上映当初、長女が「こわい！」、と行きたがらなかったので、話題作の遅ればせながらの観賞となりました。結果、長女「けっこうおもしろかった！」との言。2泊3日の貸出期間で10回近い観賞とあいなりました。（改めて今週も「かりたい」との長女。ちょうどアメリカ人のご家族をアテンドする機会もあり、車中で先方の子どもたちと英語で観賞しました）で、そんな話題作を見て、感じたことを少々。

この話、とある王国の姉妹の王女の話です。姉のエルサに“雪を操る魔法”の力が生まれつき備わっていること、そして、幼い時のある出来事から、妹のアナは姉が魔法を使えることを忘れ、姉のエルサは魔法を隠し通すため城の一室に籠り、国も他の国との交流を控え、ひっそりと時が過ぎていきます。

姉エルサが成人してから、魔法のことが国民にばれ一悶着が起き、話が進んでいくのです。幼いころの事件がきっかけに彼女らの両親である国王・女王は、エルサの魔法を「隠し通す・妹から離す」ことを選択します。でも、他の方法を取っていたら、姉妹の人生も違ったものになっていたかもなぁ、と思ったのです。

「雪の魔法」という、物語世界でも異質とされる性質を持つ娘を、世界と隔離し、時間とともに制御できることを祈って見守ったのでしょうが、魔法を制御するためには、エルサ自身が「魔法」という自分の特異な性質を肯定し、いろいろと力を試し、小さな失敗を繰り返し、そのものと向き合うことが大事だったのではと思ったり。

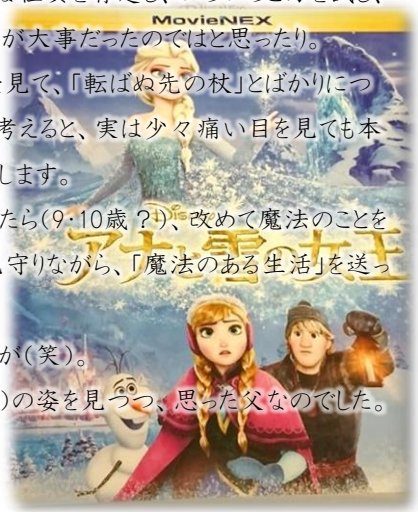
親の立場になると、ついつい子供の状況を見て、「転ばぬ先の杖」とばかりについ“守ってしまう”ことがありますが、先のことを考えると、実は少々痛い目を見ても本人が経験、葛藤していくことに意味があったりします。

妹のアナがある程度の分別がつく年になったら（9・10歳？）、改めて魔法のことを伝え、家族および信頼のおける臣下たちで見守りながら、「魔法のある生活」を送っていれば…。

まぁ、それではお話は盛り上がらないのですが（笑）。

一生懸命、話題の歌を我流で歌う次男（2）の姿を見つつ、思った父なのでした。

〔14/8/18〕



子どもらに木登りの楽しさを。

日曜、子どもらと近所の子を連れて、川を挟んだ隣の地区の公園へ。だっこだっこの次男（2）をもてあまし、手ごろな木に乗せると、他の子らも、「自分も！」、と木登り大会になりました。最初はなかなかコツがつかめず、すぐにずり落ちてしまう子どもたち。年上の子が1本の木に登ることに成功すると、おもしろいもので、次々木を制覇していく子どもたち。降りる時飛び降りて、おでこをぶつけるのもご愛嬌。

ナマケモノのように、枝の分かれ目にずーっとまたがりご満悦の長男（4）。長女（6）はアリにキャーキャー言いながら登っていました。〔14/5/19〕

告白。

先日、ドラマか何かで“結婚”が話題になっていたときのこと。2歳7か月の次男がおもむろに「ちちとけっこんする！」、と満面の笑みで言ってきました。「だって父のことだいすきだから！」。“結婚＝大好きな人とするもの”ととらえたようです。「えっ」とは思いつつ、なんともうれしかったので、その後、何度か「誰と結婚するの？」と質問。

数日後、「もうけっこんはしないの…」としおらしく言ってきました。しつこく聞きすぎた！?、と思わずどぎまぎしてしまいました。息子が“まっとうな”道に戻ったことを喜びつつ、どこか寂しい父なのでした。

〔14/9/16〕

あと11年ちょいで…

“毎日かあさん”というマンガにて、作者の西原恵理子さんの高2の息子さんが留学に旅立つシーン。子どもの旅立ちをしみじみ感じ、思わず長男（4）を抱きしめました。と、長男が「○ちゃん（長女：7）のこともぎゅーしてあげて」。ふと見ると部屋の片隅で長女がすねていました。（次男（2）はすでに爆睡中）「○ちゃんをさいしょにぎゅーしてあげてね」とさらに長男。すねる長女を無理やり抱きしめた父なのでした。

長女が今小1なので、あと11年ちょいで大学進学です。親元を出るとしたらこのタイミングですね。子どもの成長はあっという間なんでしょうね。今を大事にしたいと思います。〔14/10/27〕

“わたしと小鳥とすずと”

私が山口は下関での小学生時代、“好きな詩”を選んでくるという課題がありました。そこで、私が選んだ詩が、山口の童謡詩人“金子みすゞ”さんの「わたしと小鳥とすずと」。

わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、地面(じべた)をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように、たくさんの唄は知らないよ。
すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。

小4か小5の時だと思いますが、同級生の女の子に軽くからかわれた記憶も(笑)。今、改めてこの詩を思い出します。

最近、農家さんと、「森の生態系」の話をよくします。落ち葉が地面に落ち、虫がその葉を食み、さらに微生物が分解して、土の一部になります。多様な生物がいることで全体としてバランスを取り、一部の生物が増えても、天敵などの作用で時間が経つと元のバランスのとれた数に収まります。

一方の畑は栽培する作物のみが生存を許されます。結果、虫や病気が発生すると広がりやすくなっています。生産の効率を追った結果、生態系としてはかなり脆弱で貧相な体をなしています。なんとなく今の社会を思い起させます。

いろんな人がそれぞれの役割を演じつつ、多様な幸せが共存できる社会であればと思う八百屋なのです。〔14/10/14〕

「おれのことすきだから？！」

次男(2)が急に自分のことを「おれ」と言うようになりました。前は名前の最初の2文字を言っていたのですが、きっと保育園で周りの子が言い出してうつったのでしょう。そんな次男の影響か、普段「ぼく」と言っていた長男(4)も先日「おれ」と言うように。そんな息子らといっしょに遊ぶ休日。三輪車を乗り回す次男が危なっかしく、3歩後から追い掛けていると、その横でちょうどペダルなし自転車をこぎ出した長男が、「なんでついてくるの？」と。そして、満面の笑みで、「おれのことがすきだから？！」

「そうだよ」と思わず笑顔で返す父なのです。〔14/11/25〕

子どもの言葉の覚え方②。

日々成長していく子どもたち。末っ子次男(まもなく3歳)、場面場面で「もうおにいちゃん」「まだあかちゃん」を使い分けます。そんな次男が最近甘える時に「パパ、パパ」と言い出しました。元々我が家は「ちち・はは」と呼ばせているのですが、なぜパパ？と驚いていると、女房曰く、「買い物に行ったとき、自分より小さい子がお父さんに「パパ、パパ」と甘えていたのを見て覚えたんじゃないの」とのこと。“甘えるという状況”でこそ使う呼びかけと学習したようです。

「ちち」と「パパ」、ずい分響きの違う2つの言葉です。〔15/1/19〕

うれしい娘からの言葉

先週5日ほど、女房が出張で不在でした。そんな中、事あるごとに抱っこをせがむ次男(まもなく3歳)。お風呂に入って、就寝する前、長女(7)が「父、これあとで読んでね。点々がないからね」と、DS(ゲーム機。手書きの文字を認識するワープロ機能あり)を手渡されました。開けてみると、「ちち、たっこはかりでおつかれさま。わたしもてつたいかんはるからね。」。

思わず長女を呼び、ぎゅーと抱きしめました。長男(5)に「ずるい」とつっこまれ、長男そして次男もぎゅーっと。〔15/1/26〕

ホームパーティの効用

12/21は自宅でクリスマスパーティを催しました。ホームパーティといえば、20代後半、女房が一時期アメリカに単身赴任だしていたので、当時飼っていた愛猫の名を借り、“居酒屋ゆきのすけ”と称し、毎月1回、家に友人を呼び、ホームパーティを開催しておりました。ホームパーティ、めんどくさい部分もありますが、いいこともたくさんあります。

その1：時間を気にせず、わいわいできる；お店だと2ー3時間すると追い出されるもの。家だと時間を気にすることなく、来る人もそれぞれの都合で集まれます。

その2：料理が楽しくなる；人のために作ると、俄然やる気になります。次もおいしいものを、と思うと、料理に興味が湧き、料理がくせになります。（ただし、食べさせる人がいないと、とたんにやる気がなくなるというへい害が出る場合も）

その3：部屋がきれいになる；きれい好き、掃除好きな人ならいいのですが、何かとずぼらな店主としては、来客があると必ず大掃除、となるのでリズムができていいですね。

その4：企画力がつく；毎回、どうやって楽しもうか、って考えるので、結果、企画力がつくかもです。店主の20代の様子は次を　http://blog.goo.ne.jp/thawaree

その5：コミュニティができる；ご近所さんでなくても、仲間が集います。これぞ現在の食コミュニティです。少子化の昨今、子供にとっても、いろんな年代の人らとの交流は人格形成によいこと間違いなし。友達の友達は皆友達です。

自分で調理してよし。みんなで持ち寄るもよし。買うもよし。気のいい仲間と集まって、たまにはお家でぱーっとどうでしょうか。【注意】あまり夜中に騒ぎすぎるとご近所迷惑ですので、その点ご注意を。毎週どっかで居酒屋（ホームパーティ）が開催されているのも楽しいですね。

ちなみに店主の結婚披露宴は「居酒屋ゆきのすけat鎌倉」と称し、鎌倉の鶴岡八幡にて。当日の様子は以下をどうぞ。

〔14/12/22〕

すず辰のこばれ話

3歳にして立つ。

甘えん坊の次男。朝起きれば父にだっこをせがみ、自分でやるように言われると、母や姉、兄に「いっしょにやろ」と言い（実際はほとんどやらせる）。姉大好きで一時は「けっこんする」とも言っていた、そんな次男がついに3歳になりました。そして迎えた保育園の面談。「3歳になって急にトイレがスムーズに行けるようになりましたし、給食でも野菜を少しずつ食べるようになりました」とのこと。

“3歳になった”ということは誇らしく、大きな節目として彼の中にあるようです。〔15/2/9〕

子の成長に気づくとき。

まもなく小学2年生の長女。入学当初は朝なかなか起きず、どうなることやらと思っていました。2学期途中から徐々に自分で起きて準備ができるように。この春休み、母親と弟と一緒に東京の祖母のところへ行くに当たり、「学校行くときと同じ時間には出るからね」と前夜に言うと、翌朝自分で起き、さらに弟を起こして準備をせかしてました。ちゃんと育っていくもんですね。あまりガミガミせず、子どもの成長を信じて、見守る気持ちも大切かなぁ、と思う父なのです。〔15/3/30〕

子の成長に気づくとき②。

毎週土曜、下2人はスイミングの授業があり、朝ドタバタと準備。「着替えなさい」「歯磨きしなさい」「靴下はいて」「プールの準備入れて」とせかす父。

さて、出発という段になり、妻の一言から夫婦で家事の仕方で大激論。（早くいかないといけないのに！、と心では思いつつ…）、一通りお互い意見を吐いて、ふと見ると準備完了して靴を履き玄関で待つ子が2人。

次男（3歳なりたて）「ちち、もうおおごえだすのやめなさーい！」。長男（まもなく5歳）「もう、はやくいくよ。ちちもははもおしまーい！」

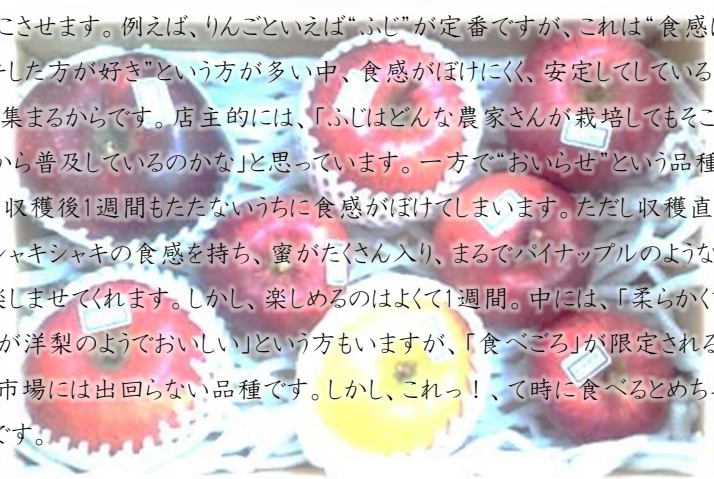
大人な発言の我が子たちでした。〔15/4/6〕

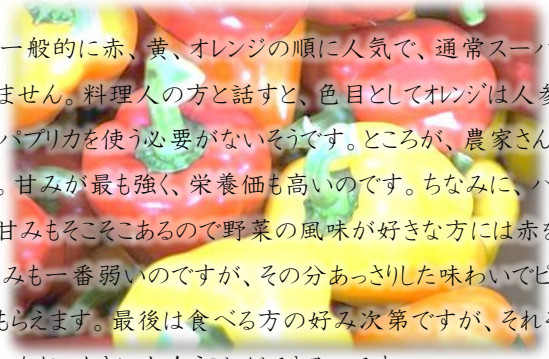
みんなちがって、みんないい。

4/2は、国連が定めた“世界自閉症啓発デー”です。世界中で自閉症について知り考える日です。自閉症含めた発達障害の人は、脳内の働き方が大多数の方と比べ異なり、”脳のタイプ”が違うと言われています。ただし、脳というはた目にはわからない器官の働き方が異なるため、外見からはわかりづらく“ちょっと変わった人”と認識されてしまうという問題が起きてしまいます。

例えば、発達障害の一つ、アスペルガーの人の場合、”空気が読めない“、”行間が読めない“と言われます。人の表情やしぐさから相手の感情を感じ取ることが苦手で、相手が発している言葉通りにしか受け取れないというのです。（脳のタイプが異なるので、同じものを見ても受け取り方が違ってしまうのです）アスペルガーの子は、家にかかってきた電話で、「お母さんいますか？」と言われ、「はい」と答え、すぐ電話を切ってしまったり（相手が母親と電話で話したがっているということが想像できない）。学校で先生に「下校時は家にまっすぐ帰りなさい」と言われ、「先生、ぼくの家には曲がらないと帰れません」と答えたり。その一方で、特定の事柄についてすごくこだわりが強く、旺盛な好奇心と集中力で膨大な知識を得たり、思考を深めたりします。世の天才と称される人の中には、発達障害だと言われている人がいます（エジソンやアインシュタインなど）。脳のタイプが異なる分、脳の一部の機能が高度に働くようなのです。

八百屋視点で見ると、まるで“特徴のはっきりした、好き嫌いの分かれる品種”を想い起こさせます。例えば、りんごといえば“ふじ”が定番ですが、これは“食感はシャキシャキした方が好き”という方が多い中、食感がぼけにくく、安定してしている“ふじ”に人気が集まるからです。店主的には、「ふじはどんな農家さんが栽培してもそこそこおいしくなるから普及しているのかな」と思っています。一方で“おいらせ”という品種は、旬が短く、収穫後1週間もたたないうちに食感がぼけてしまいます。ただし収穫直後は、ちゃんとシャキシャキの食感を持ち、蜜がたくさん入り、まるでパイナップルのような濃厚な甘さを楽しませてくれます。しかし、楽しめるのはよくて1週間。中には、「柔らかくなってからの方が洋梨のようでおいしい」という方もいますが、「食べごろ」が限定されるのでなかなか市場には出回らない品種です。しかし、これっ！、て時に食べるとめちゃくちゃおいしいです。





パプリカでは、一般的に赤、黄、オレンジの順に人気で、通常スーパーでは赤と黄色しか置いていません。料理人の方と話すと、色目としてオレンジは人参が使えるのでわざわざ（高い）パプリカを使う必要がないそうです。ところが、農家さんのお勧めは“オレンジ”なんです。甘みが最も強く、栄養価も高いのです。ちなみに、パプリカの風味は赤が一番強く、甘みもそこそこあるので野菜の風味が好きな方には赤をお勧め。一方黄色は風味・甘みも一番弱いのですが、その分あっさりした味わいでピーマンが苦手な方にも喜んでもらえます。最後は食べる方の好み次第ですが、それぞれの特徴がわかると自分に合ったおいしさに出会うことができるのです。

さつまいもですと、“べにあずま”が定番ですが、昔ながらの鳴門金時や五郎島金時などはいもの風味が強くかつ甘みもあるので焼き芋・天ぷらでは断然おいしいです。そして、最近人気が出ている“安納芋”、色目がオレンジがかった黄色で色鮮やか、加熱するとねっとりとした食感と強い甘みが出ておいしいいもです。いものサイズ・形がかなりばらつくため、市場に敬遠され、種子島の農家さんが自家用に細々と栽培していたものを宅配の業者さんが目をつけ、一躍人気となりました。同じ種子島の、果肉が紫の“黄金むらさき”は、でんぷん量が多く、収穫直後の秋口はもそもそしていておいしくないため色目だけの際物扱いですが、年明け2-3月になるとでんぷんの糖化が進み、甘さが強くなります。品種ごとに味わい方、味わうべき時期があるのです。

八百屋としては、品種ごとのおいしさ、食べ方、食べる時期をお客さんに伝え、どれを食べるか選んでもらう努力をしたいです。埋もれた品種のおいしさが日の目を見るよう、選ぶ楽しさを満喫してもらうため、野菜・果物に代わって語っていきたいと思います。

これって、人間関係でもいえないでしょうか。自閉症などの発達障害の方は、脳のタイプが異なることから、コミュニケーションの仕方が少々異なります。そこで、“ちょっと変わった人”と思われたり、人間関係でトラブルになってしまったりということが起ります。店主も、以前仕事で関わった人で、「なんでこんな言い方しかできないんだろこの人？」と思った方がいました。しかし、もしかして脳のタイプが違うのかも、と考えてみるとその人の言動が理解でき、逆に良い面を冷静に見ることができるようになったのです。“知る”ってことはとても大事です。（ちなみに男性はどちらかというと自閉症の脳のタイプに近い傾向にあるそうです。だから「空気が読めない！」とよく女性に怒られるのですね）

多様なおいしさが食卓を彩るように、多様な人々が互いを尊重し、幸せに暮らす社会は素敵だなぁと思う、八百屋なのです。〔18/3/23〕

愛だろ、愛っ。

店主が学生時代にふと抱いた疑問。「世界中に、飢餓や貧困で苦しんでいる人らがいるのに。自分は日本に生まれ、何不自由なく暮らし、そして今（大学生になって）なんとなく生きている。こんなんでいいのかな？」、と。

ISIS（いわゆる「イスラム国」）のことや、ウクライナの紛争、エボラ出血熱や、いろんな国のスラム街での貧困、そして飢餓。日本においては、震災での被害者の方々や、報道される家庭内殺人や自殺のことなどいろんな問題がこの世の中には渦巻いています。

学生当時の私は、死と隣り合わせの人がいるという現実に対し、自らを鑑みいたたまれなくなり、“日本人として生まれたこと”に罪悪感を持ってしまったのです。そんな中、10年ぶりくらいに再会した同級生Sくんといろいろ話した中で、以下のように吹っ切れました。

「自分たちの（相対的に）恵まれた状況を自ら卑下したり、否定しても何も始まらない。それよりも、その上でどれだけ自分らが“生きられるか”、“生を生き切るか” それが大事なんや。死と隣り合わせに生きる人がいることに思いを馳せつつ、まずは自分の人生を精一杯生きよう！」と。

そして今38にして思うのは、“身近な人に愛を”ってことです。1人の人間にできることは限られます。人は愛されないとき悪に走ります。卑近な例では、愛情不足に陥ると悪さをして親の関心を引こうとする我が子らのように。子どもたちの場合は、時にぎゅーっと抱きしめる。女房には心から「いつもありがとう」と言う。ケンカをしたら仲直りする。近所の人と顔を合わせたらあいさつをする。元気がなさそうなら、「なんかあった？」と聞いてみる。お客さんには元気にあいさつする。自分が関われる人に少しでもあったかいものを届けられたらなぁ、と思います。そういう意味では、「テロと戦う」＝「世界中を愛で満たそう」になると個人的には思っています。そういえば、90年代「愛だろ、愛っ。」ってCMがありましたね。動画検索してみるとおもしろいですよ。〔15/2/23〕

花は正に“愛”ですね

ってことで、いろんな方の愛あることばをつらつらとご紹介。

≪マザー・テレサのことば≫　webページ“地球の言葉”より引用

（世界平和のために何をしたらいいのかと聞かれて）

“帰って家族を大切にしてあげて下さい。”

“この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。
人から見放され、「自分は誰からも必要とされていない」と感じる事なのです。“

“100人に食べ物を与えることができなくても、1人なら出来るでしょ？”

“どんな人にあっても、まずその人のなかにある、美しいものを見るようにしています。この人のなかで、いちばん素晴らしいものはなんだろう？
そこから始めようとしております。
そうしますと、かならず美しいところが
見つかって、私はその人を愛することが
できるようになります。
これが私の愛のはじまりです。“

“私にできてあなたにはできないこともあり、
あなたにできて私にはできないこともあります。
だから、ともに力を合わせれば、素晴らしいことができるのです。“

≪マハトマ・ガンジーのことば≫　同上

“もし、ただ一人の人間が最高の愛を成就するならば、
それは数百万の人々の憎しみを打ち消すに十分である。“

“見たいと思う世界の変化に
あなた自身がなりなさい。”

“幸せとは、あなたが考えることと、
あなたが言うことと、あなたがすることの、
調和が取れている状態である。”

1kmの冒険

5月の連休の3日目。前夜、一緒に寝ていた子どもらに布団をけっぽられ、寒さで少し風邪気味に。午前中布団に包まって寝たところ、少し元気になったので子どもらを連れて近所を散策。薬局によって風邪薬を買い、そのまま娘の通う小学校へ。そこから歩くこと約1km、海沿いのバス停まで歩きました。

このバス停、娘(7)の通うスイミングスクールのバスがやってくる場所なのです。今週から、学童からバス停まで娘を一人で歩かせるため、予行演習がてら、弟2人を引き連れての散歩となりました。このバスには昨年から乗っているのですが、小学校に上がると同時に押し寄せる“不審者情報”の多さにびっくりし、念のためと1kmの距離を、地域ボランティア(ファミリーサポート)の方にわざわざ車で送っていただき、バスに乗るまで見送っていただいていました。やり過ぎやなぁ、と思いつつ、しかし、地域で少し度を越した動物への加害事件も起きていたので、大事を取っていました。

小学生に上がると親が接するようになる“不審者情報”。冷静にその内容を見ると、7〜8割は不審者というより、単に近所の人があいさつしてくれたり、頭を撫でてくれたり、ただそばを通っただけなのでは？、といった内容だったりします。『見知らぬ人にはついていかない！』、と、学校や家庭で厳しく言われ、その上、あまり近所の方々と普段接する機会のない子らが、「とにかく知らない人が近づいてきた！」、と親に言い、そのまま警察に通報されてしまっているようです。

これはこれで問題です。地域の方が見守ってくれるからこそ、親は地域で子どもを育てることができるのです。まずは“近所で人に出会ったらあいさつをする”、から始めないと地域の力がそがれてしまいます。その一方で2〜3割の情報では、黒づくめ・サングラス・写真を撮るなど怪しい行動をとる人が見受けられ、大変心配になります。

ちょうど町内会の班長を仰せつかった今年。地域の方との交流の大切さを思いつつ、“1kmの冒険”に出る娘を思う父なのです。

〔15/5/7〕

期間限定のやさしさ。

先日長男が5歳の誕生日を迎えました。大きくなったなぁ、と感慨もひとしお。誕生日当日、朝から「たんじょう日おめでとう」と声をかける長女(7)。

昼間DVDを借りに行くと、「たんじょう日だから、〇◇にえらばせてあげようね」と次男(3)を諭す長女。さらに、誕生日ケーキを食べる時には、「さいしょに一ばん大きいのを〇◇にあげてね」とこれまた大人な対応。いやー、娘も成長したなぁ、と感心しました。

と、翌朝、見事に姉弟ゲンカをしておりました。どうも“誕生日限定”の姉のやさしさだったようです。〔15/5/7〕

かわいい子には旅をさせよ。

長女(7)だけ、スイミングの大会が江別(札幌の隣)であり、スクールの子らと1泊2日のバス旅行へ。親御さんの中には、江別へ応援に行かれる方もいたのですが、ここはあえて1人で送り出すことに。予想通り、直前になって不安になったのか、「(上のコースの)知らない子がいっぱいいるからヤダ。もういかない！」と言い出す始末。

戻ってきて「何が一番おもしろかった？」と聞くと、「みんなでのおとまり！」。試合はどうした…、と思いつつ、少したくましくなった我が子に一安心の父なのです。

〔15/5/11〕

何でも受け止める、やさしい長男です。

何かとやさしい長男(5)。姉や弟が怒られていると、「おこんないで」と言い。すねている姿を見つけると、「ぎゅーってしてほしいんだよ」と言う。自分でできるくせに、「ちちとー！」と騒ぐ弟に対しては、「おれがやってやるよ」と手伝ってやる。

そんな長男、「誰と結婚するの？」と聞くと「だれでもいいよ」との回答。それが先日。「〇ちゃんと」と女の子の名前が！ 理由を聞くと、「〇ちゃんがおれのことすきだっていうから」。

何でも受け止める、やさしい息子です、はい。

〔15/5/25〕

娘と父の“がまん比べ”

“わからないことにイライラする娘”と“わからない・わかろうとしない娘にイライラする父”と。どちらが先にブチ切れるか、それとも、最後までどちらもなんとか耐えきるか…。5/17(日)の午前中は、そんな娘と父の“がまん比べ”な時間でした。

函館ラ・サール学園での「算数オリンピックの問題にチャレンジ！」というイベントに父子で参加。数か月前に学校から配布されたプリントを見て、娘が「行く！」、というので申し込んでいたものの、前日になって事前配布された問題をいっしょに解くと、あまりの難しさに行く気をなくす娘。1-3年生対象で、3年生でもわかるかどうかというレベルなため、2年生の娘に難しいのは当たり前。父としては優しく例題を説明しましたが、「むずかしい」という思いが娘の頭にいっぱいになってしまったようでした。

で、当日。最初に出された計算問題で、習っていない割り算を見て、やる気なしモードに拍車がかかる娘。「かけ算・ひき算を先にやって、結果を式で書いてみ」と言うも、普段はすぐ答えを書くので、途中経過を書くことに抵抗を示す娘。「考えたことを書くことで間違いにくくなるし、見直しもできる」ということを伝えたかったのですが、答えが出た後、途中式を消して答えだけ清書しようとする娘。「だっていつもはかかないもん！」、と。(なぜ、そこにこだわる！、と思う父)

そしていよいよ文章問題へ。「問題の図をノートに書いてみましょう！」との先生の言葉に、「学校のノートに他のことかいちゃいけないんだよ」、と娘。なんのために持って来てん！、とイライラが募る父。机に突っ伏す娘。こちらも思わず、「やる気ないんなら帰ろか！」、と言ってしまう始末。その後、わかる問題があって少し気を持ち直し、なんとか最後まで乗り切りましたが。少々レベルが高すぎたようです。

【父の反省】「わからない」という娘の状態を受け止めた上で、どう興味を引き出すか。葛藤する娘の姿を楽しむ余裕が必要でした。「困難に立ち向かえ！」、と親の想いだけ先行するといいことないですね。

精神修行のような半日でした。。。〔15/5/18〕

たまには…

常連の皆さんはご存じのように、木造アパート1階にある“すず辰”は、夏は涼しく冬は寒い、野菜にやさしい環境です(逆に人間には少し厳しい…)。冷えると風邪をひきやすい店主は基本厚着。最近までネルシャツの下に2枚着込んで、下も冬ズボン。暑苦しい恰好をしておりました。

さすがに暖かくなった先日、薄手のパリッとした綿シャツを着用。すると娘(7)が一言、「あっ、今日はかっこいいじゃん。そのシャツって私が前にえらんでやったのだよねぇ」。

えらそうに！、と思いつつ、たまにはおしゃれをしないといけないなと思った父なのでした。〔15/6/15〕

「ほら、あったかいっしょ！」

長男(5)と次男(3)が保育園をサボって店に来た日。閉店後、図書館へ。「いっしょにいく！」、という次男。小雨が続き、気温がぐっと下がって肌寒く、抱っこして図書館の入り口へ。「寒いから、ぎゅーってして」と次男に言うと、「わかった！あたたかい、ちち？」としっかり抱きつく息子。次男希望の絵本1冊と、予約していた本を借り外へ。

「ちち、だっこして。」と次男。やれやれ、と思いつつ、抱っこした瞬間。「ちち、ほら、あったかいっしょ」と首元に両腕を回す息子。いやー、息子ながら、やるなこやつ、と思った父なのでした。〔15/6/29〕

星に願いを。

最近は学童の方が楽しいようで、学校が休みでもとんと店にやってこない小2の娘。そんな娘の七夕のたんざくに下の文章が…

「ちちのみせにいっぱい人がきて人気のおみせになりますように。」

親孝行な娘です。
父はがんばります。〔15/7/7〕

娘親目線の運動会改善案？

小2の娘の運動会を見て、思った改善案の数々。（半分ぼやき？）

徒競走やリレーなどのゴールに引かれるゴールテープ。1位の子にとっては、テープを切るって快感があったかと思うのですが、頭上にテープを渡すだけで、その下をくぐる子どもたち。ゴールの瞬間（もしくは少し前）に片側の人がテープを離す必要があり、かつ張っている位置が胸から腰にかけてでなく、首の位置にテープを張ってしまい、首締めの事故等が起ったりと配慮なのでしょうが、安全第一で味気ないものに。テープ職人の先生がいてもいいのになぁと勝手なことを思ってしまいました。ゴムと言う手もありますし。どうでしょうか？

1～3年の低学年では、男女混合で徒競走や運命走（※）を競う子どもたち。4年生からは男女別。そこは1年生からでいいのでは？、と娘親はつい思ってしまいました。女の子だけなら勝てた子らを見ると、思わず「そこの男子じゃま！」、って思ってしまいます。運命走では男の子に勝てる快感もありますが、はてさていかに。

娘が1～6年生混合の地区対抗リレーに出場（6チーム対抗）。第1走者は1年女子。スタートの混戦で出遅れ、娘チームはビリに。その後、上の学年の子らが頑張り、驚異の追い上げで最後は2位に。「練習では1位だった」とうれしそうに言っていた娘は落ち込んでいました。やはりスタートが大事です。スタートは6年女子がやり、アンカーを6年男子がするってのはいかがでしょうか？

最後は、1･2年生の午前帰り。午前中に出る競技が集中し、運動会が終わる前に途中で解散になります。応援合戦に参加し、途中自分の組〔赤・白〕の点数差に一喜一憂していたものの、その勝敗の結果を知らずに帰る1･2年生たち。低学年の子だけ中途半端な参加をするってところが変な感じです。午後からあるPTA参加競技にうっかり親がエントリーした場合、なぜかそのために残る羽目になるという罠？も。

うーん、我ながらめんどくさい親ですね。すみません。〔15/6/1〕

※運命走：借り物競争のように、取った札やどの選択肢を選ぶかによって、取り組む課題が変わることで競技の難易度が個々で変わる競技。自らの選択により運命が決まる、まさに人生の縮図ような競技。

“褒められたい夫”なるもの

先日、“褒められたい夫”について、男女の視点から議論する、といった番組がありました。運動会の父兄競技でせっかく活躍しても奥さんに褒めてもらえずがっかりする夫。妻が用事で出かけたので3時間ほど子どもと格闘し結構大変だったのに、奥さんからは「おつかれさま」の一言もなかった夫など。店主も夫なので、わかるなぁと思いつつ、主夫でもあるので、妻側の主張もよく分かり思わず笑ってしまいました。

どの事例に対しても、コメンテーターで出ていたタレントの千秋さんが「だって夫は一瞬だけ頑張っているだけじゃん。奥さんはいつもやってるし！」、とことごとくダメだし。運動会であれば、奥さんは朝早く起きて弁当の準備をし、全部の段取りをして応援に臨んでいる。夫の方はその奥さんの頑張りにねぎらいもなく、自分が競技で頑張ったのをほめてほしいなんて虫がいい、とのコメント。子どもを相手にする苦労も、ただ大変だった、でなく、いつも妻はこんなに大変なんだ？！、と相手のことに想いを致し、「いやー大変だったよ！」の後に、「君の苦労が少しわかったよ。いつもありがとう」、と言葉を続けば奥さんの態度も違ったかもしれません。夫とすれば、自分は普段仕事を頑張っている！、って思いがあるのでしょうが。なかなかどうして、夫婦のすれ違いは続きます。

かく言う店主も、第一子である長女が生まれたころは、仕事仕事の毎日。初めての子育てに奮闘し、かつ生後9か月頃からは仕事と育児の両立に苦労する女房を労わる余裕もなく、逆にやっとこ寝かしつけた長女を帰宅時に起こして怒られるのが日常と言った体でした。

「褒められたい夫」の皆さま。まずは奥様へ「いつもありがとう」の一言と肩もみなぞしてはいかがでしょうか。愛が伝わると結構愛は返ってくるものです。

そして心の広い女性の皆様、
不器用な夫の愛をどうか受け止めてくださいませ。

〔15/8/10〕

※2ページでご紹介したマンガ
「ぽっかぽか」が夫婦円満に
よく効きます→

守りすぎも問題です。

娘(7)が小学校で田植え体験をすることになりました。で、学校のプリントを読んでいると、“靴下をはいてやります”との言葉が！？ 泥の中の石等で足を傷つけないために、靴下をはくんだそうです。しかも全員が！？

米農家さんは、田植え時、専用の長靴や足袋をはきます。長丁場の田植え時期、けがをしないためだと思います。大学時代、米の研究室で学んだ店主。長靴があるくせに裸足のまま入っていました。なぜって、裸足で泥に入ると、動きやすいし何より気持ちがいいのです。裸足にまとう泥のひんやりとした感触に、野生の血が騒ぐといいますか、解放されるといいますか。

ケガを気にされるご家庭では靴下をはかせるのもありだと思います。ただ“裸足で泥に入る”という選択肢も残してほしいのです。安全第一で貴重な機会を奪ってしまうのもどうなのかなと。少々のケガも一つの経験だと思います。保育園時代は裸足で田植えを楽しんだ娘が、小学校では周りが靴下はくからとなんとなく靴下になるのも父親として微妙な状況です。選ぶ余地がほしいのです。

実は似たようなことが保育園でも。運動会前に保護者会の役員と先生方で会議。毎年使用するグランドの周りに小学生でも簡単にまたげる柵があるのですが、昨年、年長児の子がまたぎ損ねて転倒し、腕を骨折をしてしまったのです。で、“今年は柵越えを禁止にする”という話が。「何年もやってきて、たまたま1人がケガしたからって禁止はないでしょう！」、と猛反対の私。昨年の事故を伝え、注意を喚起するにしても禁止しなくてもと。いろいろやり取りした結果、万が一、けがをする子が出た場合は、保護者を代表して、私が先生と一緒に謝りに行くので注意喚起にしてくれと強く主張し、“注意喚起”のみとなりました。

どちらも子どものためによかれと思って、結果“過保護”になっていると思うのです（親御さんのクレーム対策という側面もありますが…）。あまり守りすぎると子どもは弱くなります。もう少しケガにおおらかに、子どもにはいろんな体験をさせたいと思います。

〔15/6/15〕

写真は8歳の長男の手

「ちち、ちゃんとして！」

店を閉め、子どもらを迎えに行き帰宅。そのまま家に入らず、3人でサッカーボールで遊びだす子どもたち。「父もいっしょにあそぼう」と言われるも、「夕飯の準備があるから」と家に入り、手早く準備。子どもらと食事をし、ゆっくりした後、「ふろに入るぞー」と声にかけると、なぜか長男が玄関を開ける音が。「なにしてるの？」と聞くと、「げんかんあいてたよ。ちち、ちゃんとかくにんして！」と長男。えー、最後に家に入ったのは遊んでいた君らですが…。

戸締りに気を配る頼もしい長男(5)です。

〔15/7/21〕

三者三様の母への愛。

朝、果物好きな長男と次男にパイナップルと桃を切る父（パイナップルは石垣の有機栽培のハワイ種。桃は福島わかば会さんのあかつき）

起きてきて、早速手を伸ばそうとする長男に、「ご飯たべてからにしなさい」と言うと、「わかった」と素直にご飯を食べ始めました。食事も終わり、「もう、（食べても）いい？」と立ったままつまもうとする長男。「お皿ごとテーブルに持っていってみんなで食べな」と父。嬉々として、次男と競うように食べ始める長男。

自らも食事が終わり、果物を食べようと思った母が一言、「えー、もうないじゃん！」それを聞いた長男。今まさにフォークで刺した最後のパイナップルの切れ端を、「これいいよ」と母に差し出す。「さっき一切れ食べたからいいよ。食べなさい」と息子に譲る母。安心して、食べようとした長男に、長女が厳しく、「母にあげな！」。もう一回、「いいよ、食べなさい」と母。「だめ、母にあげな！！」と長女。母にパイナップルを差し出す長男。パイナップルを口にした母に、次男が「なんで、早く食べないのさ～！」と。

最後の一切れを母にあげようとした長男(5)。譲ろうとした母に、絶対食べさせてあげたかった長女(8)。さっさと果物を食べなかった母を言葉で責めつつ、きっとおいしさを共有したかった？次男(3)。

三者三様の母への愛を感じた朝でした。〔15/8/10〕

こども食堂、やっています。

店の隣にある本通町会館にて、毎月第3木曜日に「はこだてこども食堂」をボランティアの人たちとやっています。テーマは「つくってたべよ　いっしょにたべよ」。毎月、子どもらと一緒に料理をして、温かい食事をみんなで楽しんでいます。

“こども食堂”というと、世間的には“孤食や貧困”との関連で報道されがちです。問題の根っこは、地域の大人が地域の子どもの成長を見守りづらくなっている今の社会状況にあるように感じています。もし本当に食べるに困っている子どもが目の前にいたら、多くの人が手を差し伸べるはずです（実際、はこだてこども食堂をやるに当たり、多くの方から“子どもたちのために”と有形・無形の援助をいただいています）。しかし、現代は見た目にはわかりづらい状況がありますし、そもそも普段接点のない子どもに大人がいきなり関わろうとした瞬間、“不審者扱い”を受けかねない状況があります。

まずは地域の大人と子どもが自然と関われる場として、こども食堂があれたらいいなと思っています。関係ができれば、子どもたちが何か問題を抱えた時に、親御さんとは別の、第3の（信頼できる）大人として子どもたちをサポートすることができます。お腹を空かせていたら、いくらでもおせっかいをやけますし、友達のことで悩んでいたら話を聞いてやることができます。人間、人に話を聞いてもらうだけで問題が解決するってこともあるものです。（初恋の悩みなんてことも？）

そして、いろんな年代の子どもや大人と関わることが子どもたちにとって良い経験として、いろんなことを学んでくれる場になっていったらなとも思っています。核家族化が地方でも進んでいる今、子どもたちは人と関わる経験が不足しているのではと心配になることがあります。人間は“人のあいだ”で育ってこそ人間として成長するのだと思うのです。

細田守監督のアニメ映画「サマーウォーズ」の登場人物、栄おばあちゃんの言葉にこんなのが出てきます（映画はぜひお子さん・お孫さんと観てみて下さい）。

『一番いけないことは　お腹がすいていることと　一人でいることだから』

人間 お腹がすいていると力が出ません。そして、（物理的にも、精神的にも）一人でいると気力がわきません。ゆるやかに地域の子どもらの成長を見守っていけたらうれしいなと思う、八百屋の親父です。

こども食堂の様子

おいしくなーれ　おいしくなーれ

おはぎ　こねこね

みんなでつくったごはん

いただきます

◆日程：**毎月第3木曜**（3月は第2木曜）16～19時（食事は17時半頃）
※2019年は、1/17、2/21、**3/14**、4/18、5/16、6/20、7/18、8/15、9/19、10/17、11/21、12/19の開催予定です。
◆場所：本通町会館　函館市本通１丁目２３-１３（モスバーガーの裏手）
◆参加費：4歳～小学生 100円　中学生～大学生 200円
保護者の方 500円　（事前の参加予約をお願いします）
◆持ち物：エプロン・三角巾・てふきタオル（※ない場合は貸し出します）
◆お問い合わせ：はこだてこども食堂実行員会（八百屋すず辰内）
TEL/FAX：76-9865　本通1丁目24-3（本通町会館の隣）
HP：　http://suzutatsu831.com/with-kids/

育児中の方にお勧めの加工品

平飼たまご

森町の美しの森ファームさんの“彩美健卵”。平飼いで適度に運動し、かつ自家配合のおいしいエサを食べた健康鶏が生んだ有精卵。味が違います。森産のかぼちゃ、函館産の真昆布、蘭越産の小麦、岩内産の魚かすなど厳選されたおいしいエサと適度な運動がおいしい卵を生み出すのですね。高いですけど食べてみる価値ありです。

「これ高い卵？」と子供に聞かれる始末。うーん味がわかるのはいいのですが、広い心で食べましょうね、我が子たち。

特選3.8牛乳(ビン入り)

ビン入りの特選函館牛乳。通常の函館牛乳もおいしいですが、これは別格です。通常“130℃・2秒”の高温・短時間で殺菌するのに対し、低温(63度以上)で30分。ゆっくり殺菌するので牛乳の風味が生きています。賞味期限が短くなるのがたまにキズ。

口当たりのすっきりとした甘さに、そのあとロいっぱいに広がる香り、風味の豊かさにびっくり。生クリームを口に入れたような、何とも言えない深みとコク。これが同じ牛乳！？と驚くばかり。息子は「ココアみたい」と評してました。

あご入り博多だし屋のうまかだし

最初この味に出会ったのは、東京時代、たまたま友人といった渋谷の焼酎バー“黒瀬”にて。締めの一品としてそうめんを頼んだところ、びっくりするほどの深い味わいに思わず訊くと、「あごだしが効いてるからね」の一言。“あご”とはトビウオのこと。あごが落ちるほどうまいから“あご”。真っ赤な彼岸花が咲くころに長崎沖で取れる小ぶりなあごのみを炭火でじっくり炙り、余分な脂を落とすとともに旨みと香ばしさを凝縮。昆布や椎茸などの原料を追加して粗挽きのままティーパックに。出汁が決まれば料理はおいし。煮物、お吸い物、鍋、炊込ご飯、うどん、そば、お好み焼きと大活躍です。16袋入り。

ピクル酢

京都の飯尾醸造さんのお酢シリーズで、すず辰で最初に置いたのがピクルス用のこのお酢。その名も“ピクル酢”。ネーミングだけで仕入れたのですが、味見してびっくり、めちゃくちゃおいしいんです。ドライトマトの風味をまといつつ、ベースのお酢がとにかくおいしい。ちゃんと蔵元のことを調べ、有名な老舗の蔵であることが判明。カットした野菜をピクル酢につけてはいできあがり。ピクルスを食べた後のつけ汁は、オリーブオイルと塩胡椒加えればドレッシングに早変わり。

興味をもっていただけましたら

ここまでお読みいただきありがとうございました。少しでも興味をもっていただけましたら、いくつかの媒体で今後も読んでいただけますのでよかったらどうぞ。

① 週刊すず辰

毎週作成しています、すず辰の広報チラシです。商品紹介の「今週のピックアップ商品」に、子どもらとの日常やお店での小さな出来事をつづる「すず辰のこぼれ話」、そして店主がふと思ったことを書いたコラム「ちょっとまじめな話」が主な内容になります。肩の力の抜けた、「こぼれ話」が一番お客さんからは人気です。アナログながら一番熱い媒体かもしれません。

これを機会に毎週読んでみたい、という方は以下までメールください。

suzutatsu831@ncv.jp

「タイトル」に「週刊すず辰配信希望」と記入してメールください。せっかくなので、お名前・住所(都道府県だけでも)すず辰を知ったきっかけなど、少しコメントいただけると励みになります。

② ブログ　http://suzutatsu831.com/blog/

上記、週刊すず辰の記事などをネタにウェブ上で公開。過去の記事も閲覧できるので、お時間あるときにのぞいていただけるとうれしいです。右下に「ブログカテゴリー」欄があるので、気になるテーマで検索いただくのも手です。HPも一緒に閲覧できますのでそちらもどうぞ。

③ フェイスブック　&　インスタグラム　→「すず辰」で検索を

一番リアルタイムに情報をアップ。入荷した旬の野菜をとりあえず写真だけアップとか、子どもの発熱等による急な店の休みとか。ブログの更新情報もこちらに上げるので、まずはフェイスブックもしくはインスタグラムからどうぞ。

④ すず辰マガジン　vol.1 & vol.2

営む八百屋すず辰の自己紹介号であるvol.1には、店の特徴やおすすめの商品、八百屋の裏話に、店主の経歴が面白おかしく。“主夫な八百屋の子育て日記”その①にあたるvol.2は、今号の前段として、次男誕生あたりから、長女の卒園までをぎゅっと詰め込んで。店で配布中。宅配のお客さまには野菜といっしょに発送します。